

我楽多の詰め合わせギフト

田村嶺奈

私は此岸にて狂乱する。水のように飲めるトンボ玉は心地よい炭酸感を持つ。ベビーカーからのお願いは記憶の水槽の底に沈み、埋まってしまった。旅にでも出よっか、エーテルを見つけない。「今から帰ります。」ガラガラしていた血気盛んな二月の兵隊はすっかり心変わりをしてしまったようだ。お口の恋人には美味しくリニユアルした百合の花が大抜擢された。夜の恋は大人になっても憧れのままで瞳には映らない。天空からはラムネの中に入っているビー玉、いや違うエー玉が降り注ぐ。想像をチカラにリングに上がったけれど、レフェリーやドクターからストップがかかってしまった。まったくカチカチなのは頭じゃなくて筋肉だけにしてもらいたい。フェットチーネに茹でた後にキャラメリゼさせたサファイアを食べてみた。旬だったからかすがしく非常に香り高かった。人工衛星の名前は片思いの人にしよう。私から離れていくなんてそっくりじゃないの。悲しくなる前に白菜のおくるみで包んであげよう。私が死んだ暁には人体模型になって中華街を闊歩することを誓います。嗚呼、まるで人間みたいね。